あびこの文化

発行人
美崎 大洋
我孫子市
高野山
250－23
04(7182)
0861

# 「和解の日」をつくろう

三谷　和夫

我孫子の文化を守る会は志賀直哉邸跡の保存運動から設立された会である。従って当会は志賀直哉との縁が深いのは当然であり志賀直哉が我孫子で書いた小説「和解」は当会にとって大事な作品である。ということは大正六年八月三十一日という日は長年不和であった父直温と直哉が和解した日として当会にとって大事な日と言わねばならない。直哉と父との不和は長く続き和解に至るまでを次に書く。

始めに直哉は祖父直道と祖母留米(るめ)の溺愛を受けて育った。直哉十二歳の時、母銀死去。同年父は再婚。明治三十四年直哉十八歳の時、足尾鉱毒事件が起こり明治最大の社会問題となる。直哉は被害地視察を計画するが父の反対にあう。実は祖父直道は元相馬藩士でこのころ元藩主の家令として相馬家の財政立て直しにつとめており、そのため足尾銅山開発に関係しており、直哉の父は古河市兵衛に恩義を感じており直哉の計画にきびしく反対して第一の親子の不和となったのである。

次の親子対立は直哉二十四歳のとき、女中Cとの事件である。志賀家の女中Cを直哉が愛し、実質夫婦となる。この件では父はもし結婚するなら家を出ろと迫った。直哉は本気で結婚する気で、Cの実家(小見川)で親たちに会ったりCの教養向上のため学校に通わせたり、また自立のために鶏を飼って収入を計ることまで考えたようだが、結婚には至らなかったようだ。

次に最大の不和が直哉の結婚問題である。直哉の結婚相手は勘解由小路資承(かでのこうじすけこと)の娘康子(さだこ)であるが、康子は川口武孝と結婚して一児喜久子(五歳)を残して武孝は逝去しており、康子は未亡人であった。子供が欲しい武者小路夫婦が康子の再婚後、喜久子を養女として引き取るという約束をした。

直哉の結婚については志賀直温家には正式には知らせず、大正三年十二月二十一日武者小路家で式が行なわれた。神主も牧師も呼ばず、媒酌人も立てず当人たちの他には実篤夫婦と勘解由小路の両親だけ、かなり異例の結婚式であった。志賀家の者は誰も列席しなかった。

このあと直哉と父との関係は不和のまま複雑に推移する。大正四年夫婦は赤城山に一時住み、九月我孫子に移る。同五年に長女慧子が出産直後に死去、翌六年夏に次女留女子が生まれた。この間親子の間に強い肉親愛とその裏返しとしての近親憎悪があり、また他方に　近代人の自我と合理精神があると見る「和解」の評もある。

祖母の病気にとって今が大事な時だとわかり、直哉は父にどうしても面談しなければと思い立つに至る。事実は「和解」にあるように進んだのであろう。八月三十一日に親子が会い直哉が「これまでお父さんにずいぶんお気の毒なことをしていたと思います」とわび事を言ううちに父が泣き出し自分(直哉)も泣き出した・・・。という具合に父子の和解が一挙にまとまった。まことに記念すべき日となったのだ。このあと一気に書き上げられた小説「和解」は志賀作品中の一級品であるのみならず、日本の私小説の代表作の一つとされている。

そこで私はこの記念すべき八月三十一日を「和解の日」と銘打ち、小説「和解」に学び楽しむと同時に、志賀直哉の全作品及び志賀直哉にかかわるすべてのものに学び楽しむ日としてはどうか、また一日だけでは不十分であるから八月一ヶ月間に拡大施行してはどうかと考える。当会としてこの趣旨にのっとり然るべき事業を毎年挙行してはどうかと考える次第である。

## Covid-19 パンデミック経過(日本)

芦崎敬己 作成

1　2020 1/15 日本初の感染者(武漢帰国者)
2　1/19 武漢在住邦人の帰国第１便
3　2/3 クルーズ船(ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞﾌﾟﾘﾝｾｽ号)接岸
4　2/25 クラスター対策班設置
5　2/27 公立小中学校休業(3/2～)
6　2/28 北海道緊急事態宣言(～3/19)
7　3/11 WHO パンデミック宣言
8　3/13 新型インフル特別措置法改正
9　3/19 新型コロナウィルス感染症対策の状況分析・提言(専門家会議)→3 連休
10　3/24 東京オリンピック延期発表
11　3/25 週末自粛要請(東京)感染爆発　重大局面＝Overshoot
12　3/29 志村けんさん死亡
13　4/7 緊急事態宣言
14　4/16 緊急事態宣言の全国拡大
15　5/4 緊急事態宣言の延長
16　5/14 基本的対処方針(一部解除)
17　5/29 緊急事態宣言解除
18　6 月以降の新規感染者数の再増加
19　Go to TRAVEL 開始（7 月 22 日～）
20　Go to EAT 開始（10 月 1 日～）
21　第 3 波感染拡大（勝負の 3 週間 11 月 25 日～）
22　コロナウィルス変異種発生 英国(12 月)→ 南アフリカ→ブラジル(1 月)
23　2021 1/8 緊急事態宣言発出（1 都近隣 3 県：東京・神奈川・千葉・埼玉）
24　1/13 緊急事態宣言発出（近畿 2 府 1 県：大阪・京都・兵庫 ＋栃木・愛知・岐阜・福岡）
25　1/27 世界の感染者１億人超。(ジョンズホプキンス大学＝世界で 70 人に１人の感染割合)
26　2/7 緊急事態宣言継続発出（10 都府県、栃木終了）
27　2/17 Covid-19 ワクチンの日本初接種開始

## （緊急掲載）
## 各地の七福神巡り
### （ぶらぶら敬天愛人＝ブログのタイトル）

佐々木 侑

私がブログを始めたのは平成二十三年（2011年）十一月頃、途中で体調の具合などで数度の中断などありましたが、くだらないことなどダラダラと書き連ね平成三十一年（2019年）四月まで四七四回の掲載となり、令和を迎え中止とした次第です。

何の加減か小冊子にまでしてしまい、数えたところ七冊にもなっていたのには我ながら驚きであります。最低作成部数でも本になりますと一冊あたりの価格は高い物になります。またその内容は下品でくだらないどうでもよい事柄ばかりであります。親しい友人であり、小生の押しつけ無料贈呈本に対して、迷惑なことは分かっているのでしょうが、笑顔で受け取ってくれた方々には感謝をしておる次第です。

そのような事情をわきまえた上で、今回の会報に「各地の七福神巡り」と題してブログから抜粋した記事を臨時に掲載をさせて頂きます（紙面の都合で写真は省略したものもあります）。近場の七福神巡りですので、コロナ禍の中でウイルスに負けないよう、散歩がてらに『福』を探しに、ご自分に合った七福神を探しに出かけてはいかがでしょうか。

2012年1月15日（日）

### 『深川七福神巡り』の見廻り

1月13日金曜、とある散策の会と深川七福神の界隈を見廻りした。

15日までに七福神を巡ると各処の御開帳、色紙御記帳、笹鈴の授与等の特典があるそうで、善男善女の賑賑しい詣でが盛んであった。

七福神は七難を除き、七福を与える神々で、七福とは「寿命（寿老神）・有福（大黒天）・人望（恵比須神）・清廉（布袋尊）・威光（毘沙門天）・愛敬（弁財天）・大漁（福禄寿）」だそうな。ならば七難とは何ぞや！！「日月・宿星・火災・水害・風害・旱魃・戦乱盗難」のことだそうだが何やら難しいので天災・人災のことと理解する。昨年の災害事案は地震・津波・台風・長雨・土砂崩れ・原発事故・風評被害・政治の対応遅れ・節電・リーマン恐慌・ドル安円高・株安債権安・年金不安等々、七難どころではないので七福神様も大変ですな。なぞとぶつぶつつぶやきながらのぶらぶら見廻りであった。

見廻りに伴う費用は、専用の色紙は1,000円、各処での有難い押印は100円×7＝700円、せっかくの参拝・参詣ですから土鈴を頂くと300円×7＝2,100円、締めて3,800円支出。世智辛い年にならないよう奮発した次第となった。

★最初は寿老神の深川神明宮。寿老神は人に延命長寿の福徳を授ける福神として信仰されてきたそうな。本来の深川七福神巡りのコースの逆さ廻りであった。（東京都江東区森下1丁目3−17）

★つぎは布袋尊の深川稲荷神社。ここは無住神社であるがこの期間は町内会で参拝者の世話をしていた。神社右手前に石造りの布袋尊が存置されている。（江東区清澄二丁目12番12号）

★三番目は毘沙門天の龍光院で、国土守護の武神として武将の間に信仰され、中でも上杉謙信が守護神としてあがめたり、楠正成が毘沙門天の別名多聞天を幼名にしたことは有名である。（江東区三好2−7−5）

★四番目は大黒天の円珠院。大黒天は人々に財宝を授ける福神であるそうな。特に小生は念入りにお参りをした。（江東区平野1−13−6）

★五番目は福禄寿の心行寺。福禄寿は星宿の神で南十字星の化身とも言われて、長寿をつかさどる人望福徳の福神だそうな。なぜ日本では見ることのできない南十字星の化身なのかは浅学の小生には判りませんな。（江東区深川2−16−7）

★六番目は弁財天の冬木弁天堂。弁才天とも云われ音楽、芸術の神でもあるが、日本では弁財天として財宝を施す福の神として信仰されている。小生はお賽銭をなぜか多めにしてしもた。江の島・竹生島・厳島の弁財天が有名どころ。（江東区平野1－13－6）

★最後七番目は恵比須神の富岡八幡宮。この恵比須神は八幡様の境内の西側に奉祀されている。海上安全の神・商売繁盛の神として広く信仰されている。また福徳・愛敬富財を授けるとされ尊ばれているそうな。（江東区富岡一丁目20番3号）

すべてを参拝・参詣したところで、深川と云えば「深川めし」である。老舗の「割烹みやこ」で熱燗とともに美味しくいただき、七福神巡りの見廻りを終えた。

## 『日本橋七福神』見廻り
## （映画「麒麟の翼」ロケ地見廻り）

5月16日、東野圭吾原作の映画「麒麟の翼」ロケ地巡りをした。この映画は日本橋七福神を舞台としていたので「ぶらぶら敬天愛人」としては時期外れの「七福神巡り」として市中見廻り記録の記帳とした。神社以外の刺傷現場江戸橋、力尽きての死亡地日本橋麒麟像の地や小津和紙店、はたまた甘酒横丁などロケ地見廻りについては気が向いたら別日に記帳をする予定である。

1、地下鉄半蔵門線水天宮で下車したので、一番目は「水天宮」の弁財天。金運の神様元々は「情け有馬の水天宮」で有名な安産の神様。天御中主大神のほか平家一門、安徳天皇・建礼門院・二位の尼も御祭している。（中央区日本橋蠣殻町二丁目4番1号）

2、「松島神社」は大黒神、御祭神は天照大神など14柱と賑やか。見物人も賑やか。近くまで海辺であったその昔は神社の燈明が船を導く灯台の役を果たしたそうな。（中央区日本橋人形町2丁目15－2）

3、「茶ノ木神社」は布袋尊を祭っている。神社の周囲にお茶の木が巡らされていることが名称の由来とか。（中央区日本橋人形町1－12－10）

4、「小網神社」は福禄寿、弁財天を祭る格調高い神社。東京十社巡りの一社、また東京下町八社福参りの一社でもあり、以前ぶらぶら敬天愛人はおのおの参拝している。貴重な文化財も多いそうな。（中央　区日本橋小網町16－23）

5、「寶田恵比寿神社」は恵比寿神を祀っている。祭壇の恵比寿神像は運慶作とも左甚五郎作とも言われているそうな。日本橋べったら市が行われることでも有名である。（中央区日本橋本町3－10－11）

6、「椙森神社」も恵比寿神などを祀っている。「すぎのもりじんじゃ」と読む。壱千年余り昔の創建で古い由緒を誇っている。平将門の乱を平定するため藤原秀郷が戦勝祈願をした神社だそうな。神田明神社とは敵対関係にあるのか？江戸三森、三富籤の一つ。（中央区日本橋堀留町1-10-2）

7、「笠間稲荷神社」は寿老神などを祀っている。本社は茨城県笠間市にある、日本三大稲荷社である。ここは差し詰め日本橋支店か？（中央区日本橋浜町2-11-6）

8、最後に「末廣神社」で毘沙門天などを祀っている。この地は明暦の振袖火事で移転した浅草吉原以前の幕府公認遊郭の葭原（元吉原）があった地域で、守り神として篤く信仰されたそうな。（中央区日本橋人形町2-25-20）

日本橋七福神社は恵比寿神が椙森神社と寶田神社の二社なので八つの神社を巡ることになる。従って市中見廻りも八社となった。「七難即滅、七福即生」という仏教の経典の言葉にあやかっている。どこの七福神コースもお寺さんが絡んでいるものだが日本橋七福神は神社のみでコースができている。これは歴史的に新しく昭和30年頃に始まった七福神であるからのようだ。全国には200以上の七福神コースがある。

## 放談クラブ報告

### 『流行感冒』とスペイン風邪を聴講して

稲葉　義行

令和三年二月六日に開催された放談クラブ『流行感冒』とスペイン風邪」について報告します。志賀直哉作の身辺小説「流行感冒」は大正八年の作、当時、猖獗を極めていたスペイン風邪を題材とした小説で、世界的に流行している新型コロナウイルス感染拡大が騒がれている今、時宜を得た講演となりました。

講師は当会の副会長である村上智雅子氏で、会員の田中由紀氏が朗読をされました。

表題の「流行感冒」は今で言う「流行性感冒（インフルエンザ）」で当時は、流行りの酷い風邪位にしか思われず、呼称もまちまちで題名の「流行感冒」も一つの呼び名でした。主人公は長女を生後間もなく亡くしており、病気に対して心配性になっている。そんな折、世界的に流行性感冒が猛威を振るっており、我孫子にも流行って来たので、家族を感染させないために人混みには近付かないように、町へ使いに行っても直ぐ帰って来るように、また、お手伝いさんには芝居見物を禁止するなど喧しく言っていた。しかし、「石」というお手伝いさんが嘘をついて芝居見物に行ったことから、主人は大変立腹し、暇を取らせると言い出したので、奥さんが取り成し仕方なく引き続き勤めさせることにした。それから三週間程たち、流行感冒も下火になってきたが、今度は「石」を除く家族全員が罹患してしまった。その時、「石」が献身的に介護をしていたので今まで抱いていた悪感情を捨て、「石」への感謝の気持ちが芽生えた。そして、彼女が結婚することになり祝福するところでこの小説は終わっている。

この小説には、志賀家の裏山では初茸が良く生えており近隣の人が探しに来ること、小学校での運動会や毎年十月中旬に芝居小屋が掛かり近在から弁当持ちで見物に来る老女のいでたち等、当時の我孫子の風物や町の状況が克明に描かれている。

小説の背景にあるのは大正七年（一九一八年）から世界で流行り始めたスペイン風邪で、この風邪はスペインが感染源ではなく、最初は一九一八年（大正七年）第一次世界大戦中、アメリカのカンザス州で最初に発生したのですが、戦時中の情報統制下にあったため報道されず、アメリカ軍がヨーロッパに派兵されヨーロッパ中が感染し、スペインにまで及びました。当時、スペインは中立国であったため自由に報道され、初めてスペイン風邪と命名されましたが、スペインにとっては迷惑な話であったことでしょう。

感染期間は一九一九年（大正七年）から一九二一年（大正十年）までで、この間、世界中の感染者は五億から六億人（総人口十八億～十九億人）で約三十％の感染率となっており、死亡率は三～七％となっています。日本の感染状況は第一波が大正七年八月から大正八年で感染者は多かったが、致死率は低く志賀家の感染はこの時期で、与謝野晶子のこどもたちの罹患、島村抱月の罹患死亡等があり、第二波は大正八年十二月から大正九年三月で感染者数は少なかったが、致死率は高かった。永井荷風は二度感染し、斎藤茂吉も罹患し安静第一を説いている。第三波は大正九年十二月から大正十年三月で、感染者は減少し、致死率も低下してきて自然消滅の状態になってきた。子供達が感染した与謝野晶子は「流行性感冒の床から」と題し、「政府はなぜ逸早くこの危機を防止する為多くの人間の密集する場所の一時的休業を命じなかったのでしょう」との一文を横浜貿易新報に寄せていますが、今日の新型コロナウイルスの感染防止につながる貴重な意見ではなかったでしょうか。

我孫子では女工を三、四百人使用している山一林組製糸工場で密集・密閉の状態からクラスターが発生し

ていたようで、女工が四人死亡したという噂があったと「流行感冒」にも書かれています

令和二年十月二十日朝日新聞「天声人語」及び令和三年二月一日読売新聞「編集手帳」では歴史学者の磯田道史氏の話を紹介し志賀直哉の「流行感冒」を取り上げています。

なお、「流行感冒」が主演本木雅弘・妻役安藤サクラで令和三年三月二十七日(土)ドラマ化され、BS4Kで放映される予定です。また、BSプレミアム放映は4月以降とのことです。是非ご覧になってください。

## 式場隆三郎『二笑亭綺譚』

美崎　大洋

当会の会報「179号」に掲載の「「山下清展」を観て」(萩原法子氏)を読んで全く同感した。一般の山下清に対するイメージは「放浪の天才画家」ではあるが、我々の世代のそれはまたその裏に見える式場隆三郎の陰である。そういう意味で、「すべての展示を観終わって感じたことは山下清を発見、世に出した式場隆三郎の姿や影がまったく見えないこと」に私も同感したのである。

萩原氏の寄稿文でもうひとつ興味を持ったのは式場隆三郎と白樺派との関係である。「式場は早くから雑誌「ホトトギス」などを愛読し、学生時代に柳宗悦を知り、生涯にわたって「私の芸術に関する恩師」と仰いだばかりではなく、自分の娘さんの名づけ親にもなってもらっている。(中略)文芸の世界に憧れた彼は文芸や芸術創造活動と人の精神的な問題とのかかわりに関心を持ち、民藝運動に初期から参画、「白樺派」の作家たちとも親交を結んでいる」の表現も見える。

式場隆三郎がそれほど白樺派、特に柳宗悦を慕っていたとは私は全く知らなかった。単なる私の無知かも知れないが…。

我孫子と言えば白樺派である。「白樺文学館」では白樺派の文人の自筆の原稿や関係図書や手紙なども数多く所蔵し、観ることができる。しかし式場隆三郎との関係ではあまり展示会などではお目にかかっていないように感じる。

それはともかく、さらに初めて私が知ったのは、隆三郎の『二笑亭綺譚』という本とその復刻(**写真**)についてである。その本はまた式場隆三郎の代表作とされているではないか。興味のままに調べてみたので紹介する。

### 建物「二笑亭(にしょうてい)」

二笑亭は、東京深川の元足袋職人で地主渡辺金蔵(1877～1942)が自ら設計し大工を指揮して建築させた個人住宅(渡辺邸)である。関東大震災後、渡辺は世界一周旅行に出かけた。帰国後、震災後の区画整理が終るとバラック建ての自邸を本建築に改築する工事を始めた。着工は1927年頃で、自分で材木などを購入した渡辺は設計図もないまま口頭で大工に指示を出して建築させたが、その指示がたびたび変わったために工事は何度も中断。1931年8月に新築(竣工)届が出されたが、その後も工事が続けられた。意のままに建築したこの家は、昇れない階段、奥行きのない押し入れ、洋風呂と五右衛門風呂の連結など奇妙な構造を有していた。渡辺の奇行に耐え切れなくなった家族は別居し、渡辺ひとりと女中のみが残っていた。その後、渡辺が加命堂脳病院に入院させられ、2年後に取り壊された。

『二笑亭綺譚』

この建物は、閉鎖的で特異な外観を持ち、内・外観とも、統合失調症と診断された建築主の心を反映(**写真は1939年刊行本**)しているとされ、当時の新聞や近所では(「牢」

「お化け屋敷」などと書かれたり呼ばれていた。建物に興味を持った精神科医の式場隆三郎は「精神病理学の上からも珍しい資料であり、美学や建築学の方面でも幾多の問題を含む」ことから、取壊し前に、谷口吉郎(建築家1904～1979)と共に調査を行い、多数の写真を収録し、『二笑亭綺譚』(二笑亭に関するほぼ唯一の資料)としてまとめ、「中央公論」1937年に発表、その後、1939年に単行本化された。隆三郎は芸術としての価値を判定したほか、建築主(渡辺)の生い立ち、主治医とのやり取りから病状を検討し、同書の中で精神医学的考察を加えている。

同書では、存命中の本人及び家族への配慮からか渡辺金蔵の実名は伏せられており、「赤木城吉」という仮名になっている。隆三郎は「できるだけ冷静に、そして医学的に、彼の残した大作を分析し、その永い心労が決して無意味に終わらなかったことを世に伝えたい」との立場を一貫して取った。

同書は第二次世界大戦後も何度か再刊され、時代を超えて読み継がれている。

令和2年2月、二十七年ぶりに、隆三郎が終生願っていた木村荘八の「幻」の挿絵と、五十嵐太郎氏の解説を加えた新装版として刊行された。

### 白樺派と隆三郎

『二笑亭綺譚』と民藝運動との関係について述べる。

「隆三郎は柳宗悦に随伴し早い段階から民藝運動に関わり、折しも『二笑亭綺譚』の執筆の頃は隆三郎が民芸運動同人たちとの関係性を強め、運動に本格参入していく時期と重なっている。隆三郎は二笑亭を柳が提唱する民藝美論が検討すべき資料とし、一部の器物が「民藝」たることを述べる。しかし、調和の点からは無数の錯誤があり用途も死んでおり、「用途と美をかねた工芸的の王国に近づきながら一歩手前で顛落した部分が多い」と捉える。従って隆三郎にとって二笑亭は「民藝」そのものではない。隆三郎が二笑亭に世間から顧みられなかった美を見出し社会に問う姿は、宗悦が従来「見捨てられてきた」無名の職人たちの手

に心を寄せ、社会にその重要性を訴えかける姿そのものである。」（式場隆三郎『二笑亭綺譚』新装版の刊行ー木村荘八の「幻」の挿絵が媒介するもの　山田真理子『医家芸術２０２０年後期豪』）

ところで式場隆三郎の自宅は柳宗悦、浜田庄司、河井寛次郎が共同で設計し、様々な民芸活動家が関わった家で昭和14年に竣工した。「自宅を記念館に」という隆三郎の遺言に基づき、現在、式場隆三郎記念館設立に向けて着々と準備が進んでいると聞く。市川市では、この式場邸を登録有形文化財にするため検討しているとも聞く。

## あびこだより　９４号

### 「楚人冠小研究ーこぼれ話」

美崎　大洋

『おい序を書け』　『何の序を書くのか』
『本が出來る』　『何の本が出來るのか』
『集めるのだ』　『何を集めるのか』
『愚だな、文をさ』　『何を書いた文をか』
『何をッて極ってるもんか、ベラボーな』

格別べらぼうな事は無い様だが、此れ以上訊ねたら、楚人冠は打ち掛るかもしれぬ。解りの早い彼と飲み込みの悪い我とは到底話の容量を得るまで問答を續ける餘裕が無い。（中略）

更につらつら惟（かんが）みるに、楚人冠は見掛倒しの男である。丈の高い癖に斤目は少く、衛生を口にしながら不養生甚しく、ネクタイは毎日取換ふるけれども大の蛮カラ、外国通なれどもアーメンを唱へず、遊びは好きでも女を弄ばず、毒舌に反して善人、文章の巻舌調なるに反して、思慮は極めて沈重である。一本調子かと思へば順逆縦横、與奪自在。

貌を以て人を採るの険呑なるより、文を以て人を想ふのさらに亦た、甚以て見當の外るゝものなるを、吾れ楚人冠に於て之を證し得た。

これでも序とす。

明治四十年十一月

澁川玄耳

何とも難解、不思議な文章であるが、これは楚人冠の初めての出版著作『七花八裂』の序文である。この本には次のよう楚人冠の自己紹介文が載っている。

**「姓は杉村、名は廣太郎、縦横と號す。楚人冠は其の別號也。明治五年七月二十五日を以て日本に生る。身の丈五尺六寸七分也。醫を志して遂げず、法を學んで得ず、政治経済を修めて達せず、文學宗教を極めんとして其の業を卒（お）へず。學校に入るもの前後十八、其中辛く所定の學課を卒へたるもの僅に一。新聞記者となり、學校教師となり、俗吏となり、また記者となる。五たび洋行を企て、四たび成らず、五たび人を戀うて　四たび散る。もと和歌山市の出、今東京大森に在り。くはしくは郵便切手封入にて尋ね合すべし。」**

序文にしても、自己紹介文にしても現代の常識では考え付かないようなものである。

この風変わりな楚人冠についての私のささやかな「研究結果」をお話ししてみたい。

## （プロジェクト報告）
## 百人一首を楽しむ会（番外）

美崎　大洋

今月の歌（恋の歌）

（その7）

忘らるる　身をば思はず　ちかひてし
人の命の　をしくもあるかな　（038）

【現代語訳】

忘れ去られる私の身は何とも思わないが、いつまでも愛すると神に誓ったあの人が、（神罰が下って）命を落とすことになるのが惜しまれてならないのです。

【語句】

【身をば思はず】「身」は自分自身のことで、「を」は格助詞、「ば」は強意の係助詞「は」。「を」に続く時には濁って「ば」となる。「ず」は打消しの助動詞の終止形。ここで一文が終わる。【誓ひてし】「て」は完了の助動詞「つ」の連用形で、「し」は過去の助動詞「き」の連体形。【人の命の】「人」は自分を捨てた相手のこと。上の句の「身」と対比的に使われている。【惜しくもあるかな】「惜し」は（男が神罰を受けて命を落とすので）失うにしのびないという気持ちを表す。

【作者】

右近（うこん。生没年不明）右近少将藤原季縄（すえなわ）の娘。10世紀前半の人で、醍醐天皇の中宮穏子（おんし）に仕えた女房。「右近」はその女房名。天徳四（960）年の内裏歌合などに出て活躍し、歌才を謳われた。恋も華やかで、「大和物語」には、藤原敦忠（あつただ）・師輔（もろすけ）・朝忠（あさただ）、源順（みなもとのしたごう）などとの恋愛が描かれている。

「大和物語」の第八十四段には、「おなじ女（右近）、男の忘れじと、よろづのことをかけて誓ひけれど、忘れにけるのちに、言ひやりける」（男が「君のことは忘れない」とさまざまな誓いを立てたのに、女のことを忘れてしまった。その後に言い送った）とあり、次にこの歌が掲載されている。歌を送った相手は、藤原敦忠と推測されるが、「返しは、え聞かず」と記されている。

後撰集に初出、勅撰入集は十首と少ないが、女房三十六歌仙の一人に選ばれるなど、名高い女房歌人である。

（その8）

あさぢふの　小野の篠原　忍ぶれど
あまりてなどか　人の恋しき　（039）

【現代語訳】

まばらに茅（ちがや）が生える、篠竹の茂る野原の「しの」ではないけれども、人に隠して忍んでいても、想いがあふれてこぼれそうになる。どうしてあの人のことが恋しいのだろう。

【語句】

【浅茅生（あさぢふ）の】「浅茅（あさぢ）」は、まばらに生えている茅（ちがや）のことで、「生（ふ）」は「生えている場所」のこと。【小野の】「小」は接頭語、「小野」は「野原」のこと。【篠原】細くて背の低い竹「篠竹」の生えている原っぱのこと。【忍ぶれど】「忍（しの）ぶれ」は、「しのぶ」とか「がまんする」という意味。【あまりてなどか】

「忍ぶ心をがまんできないで」という意味。「などか」は疑問の意の副詞「など」にやはり疑問の係助詞「か」がついて「どうしてなのか」という意味になる。【人の恋しき】「の」は「人」が主語であることを表す格助詞で、「恋しき」は形容詞「恋し」の連体形。「などか」の「か」を受けた係り結びになっている。

【作者】
参議等（さんぎひとし。880～951）源等（みなもとのひとし）。嵯峨（さが）天皇のひ孫で、中納言源希（みなもとののぞむ）の子。近江権少掾（おうみのごんのしょうじょう）から左中弁、右大弁などを歴任し、947年に参議になった。

（その9）
**逢ふことの　絶えてしなくは　なかなかに**
**人をも身をも　恨みざらまし　（044）**

【現代語訳】
もし逢うことが絶対にないのならば、かえってあの人のつれなさも、我が身の辛い運命も恨むことはしないのに。（そんなに滅多に逢えないなんて）
　人間、誰しも追っかけてくる人には興味がないものだが、なかなか振り向いてくれない人には、かえって惹かれるもの。全然相手にされなければあきらめもつくが、たまに優しい言葉でもかけられるものなら、麻薬のように恋におぼれてしまうことだろう。

【語句】
【逢ふこと】男女の逢瀬のこと。【絶えてしなくは】「絶えて」は副詞で、下に打消しの語を加えて強い否定「絶対に～しない」を表す。「し」は強意の間投助詞。【なかなかに】「かえって」とか「なまじっか」という意味で、物事が中途半端なので、むしろ現状とは反対の方がよいという感じを表している。【人をも身をも】「人」は相手のことで、「身」は自分のこと。「も」は並列の係助詞で、「相手の不実をも、自分の辛い運命も」という意味になる。【恨みざらまし】「恨むことはしないだろうに」という意味で、「ざら」は打消の助動詞「ず」の未然形、「まし」は反実仮想の助動詞。

【作者】
中納言朝忠（ちゅうなごんあさただ。＝藤原朝忠　ふじわらのあさただ　910～966）三条右大臣定方（さだかた）の5男で、従三位中納言にまで昇進した。笙（しょう）の名手だったという。「大和物語」（前述）などにあるが、恋愛遍歴が豊かで、百人一首に登場する右近も恋人の一人だった。

**今月の雑学**
**「忘らるる・・・」（038）の歌を捩った狂歌など**
忘らるる　身をば思はず　ちかひてし
　人の命の　世話ばかりする
恐るべき事は野夫医（やぶい）に身を任す
　人の命の惜しくもあるかな
人の命惜しくはないかふぐと汁（太田蜀山人）

**「あさぢふの・・・あまりてなどか」（039）の狂歌など**
徳利はよこにこけしに豆腐汁
　あまりてなどか酒のこひしき
約束の連れもはづれて弁当の
　あまりてなどか人の恋しき
竹の子のあまりてなどか人の庭（大伴大江丸）

**「逢ふことの・絶えてしなくは・・」（044）の歌の狂歌など**
すく人の絶えてしなくば真桑瓜
　皮をもみおもかぶらざらまし
　「真桑瓜」はメロンに似た果物。「かぶる」は「かぶりつく」。畑を鋤いて育ててくれる人がいなければ、こんな風に皮ごとかぶりつくなんてこともできない、と当り前の道理だが、「すく」と「くわ（鍬）」、「皮」と「かぶる」が縁語になっているのが味噌。
月花の絶えてしなくばなかなかに
　雲をも風もうらみざらまし
河豚汁の堪忍ならぬ味はひは
　人をも身をも恨みざらまし
逢ふことのたえて久しき座敷牢（太田蜀山人）

## 第二十七回短歌の会（最終採択の一首）
一月二十六日実施

「ゆく年を惜しむ」だなどは忘れたし
　自粛・失業・疫病コロナ　納見美恵子

寒風に頂き見ゆる双耳峰
　小春日和に筑波を望む　芦崎　敬己

朝なさな狭庭（さにわ）に来たるキジバトの
　餌の豆求めわれを呼べたり　飯高　美和子

屠蘇を飲み常と変わらぬ元日に
　孫たちの声今年は聞かず　美崎　大洋

はやぶさの彼方に青き地球見ゆ
　コロナも師走もこの星の中　村上　智雅子

暗やみの御堂の影の竹灯籠
　沼の夕映え水面にひかる　佐々木　侑

憂きことは暫し忘れよ三が日
　慰めむとて空晴れ渡る　藤川　綾乃

火葬炉の鉄の扉の閉りたり
　夫は彼岸に我は此岸に　伊奈野　道子

この年は竹灯籠の灯を訪ね
　スタンプラリーに児が親と来ぬ　三谷　和夫

外出もままにはならずマスクかけ
　落葉の坂を今日も墓参に　大島　光子

## 文学掲示板

### 令和三年五月展示作品（文学の広場）

湯を弾く乙女の肌に見惚れをり
老いの旅路の伊豆の出で湯に
八千代市　藤川　綾乃

命日の来るたび今も悔い残る
反抗期にて母たたきしは
我孫子市　美崎　大洋

風花に梅の花びら混じり来る
筑波神社の階段険し
我孫子市　村上　智雅子

わが植ゑしセレベス原種の赤目芋
一株ごとに子芋を抱く
柏市　立川　多喜子

警戒が緩めばたちまち感染者増ゆ
何波目なるかこの急増は
横浜市　宇野　一夫

携帯をスマホに替へてわが叔母は
九十三歳の日々をたのしむ
東京都　関　貴与

### 楚人冠俳句「序跋詩歌集」より　杉村楚人冠

昭和十二年春

やり水の行く行く烟り梅白し
早春の山路に伊豆の日が當る
七島の七つに霞む潮しぶき
春雷や燈臺の灯の明滅す
すれ違ふバスすれすれに夜叉の花
その歌の栞にはさむ菫かな
蛮人の試作と傳ふ木彫の雛
油煮て秘佛を祭る春の雨

## （我孫子市ホームページより）

### 新型コロナウイルスワクチンの接種について

現在、国は新型コロナウイルス感染症に係るワクチンについて、安全性・有効性の確認を最優先に、すべての国民に提供できる体制を整備しています。

今後、国で承認されたワクチンの供給量に応じて、順次ワクチン接種を実施していく予定です。

本市においても、有効で安全なワクチンが供給され次第、速やかな接種が可能となるよう、国から示されるワクチン接種の優先順位を踏まえ、接種体制の構築を進めています。

なお、対象者の接種スケジュールの詳細は現在のところ、国からは示されておりませんが、4月以降に高齢者から順次接種できるよう準備を進めており、高齢者への接種券の発送時期は3月下旬を予定しています。

開始時期等が決定しましたら、広報あびこ、ホームページ等でご案内いたします。

### 今後の行事予定

2月2日、政府は緊急事態宣言の対象区域の11都府県のうち、栃木県を解除とした一方、東京や大阪などの10都府県について、3月7日まで延長することと決定しました。3月5日には首都圏の一都三県について緊急事態宣言をさらに2週間延長し3月21日までとすることが決定された。今暫く不要不急の外出は控えることが必要です。

当会の活動についても感染防止に十分配慮して行う予定ですのでご理解ご協力をお願いします。

□「放談くらぶ」
日時　4月18日(日) 14時～16時
会場　我孫子市民プラザ第1会議室
講師　美崎大洋氏(当会会長)
演題　「楚人冠小研究―こぼれ話」
（6ページ「あびこだより94号」参照ください）
◎参加費　会員無料　非会員三〇〇円
申込みTEL&FAX(七一八五)〇六七五　佐々木まで

□ プロジェクト「短歌の会」予定
第二十八回短歌の会
日時　3月30日(火)13時30分～
場所　けやきプラザ10階小会議室

### 白樺文学館の展示情報

白樺文学館では、企画展示と「白樺派と我孫子」、「民藝運動と我孫子」という2つのテーマ展示を交互に開催しております。

**期間**　3年3月3日(水)から
常設テーマ「白樺派と我孫子2021」
**内容**　白樺文学館が開館して20年、志賀直哉没後50年という節目の年のコレクション展です。

□ 友好団体の催しもの（報告）
我孫子市史研究センター「アビスタ・ストリート展示」
2月6日～3月1日の期間で、アビスタのストリートで昨年に引き続きパネル展示を行った。パネルは「我孫子市史研究センター紹介」「水戸街道・我孫子宿の街並図です」「久寺家周辺の遺跡と久寺家城」「我孫子に郷土資料館を」「遺跡・史跡にみる新木」「鮮魚街道(なまみち)」の6つ。いずれも今までに市民活動フェアなどに展示したもので、市史研の活動をもっと知ってもらおうとの考えから企画・実施された。

**編集後記**　「ジェンダー」という言葉が一躍注目を集めた。ジェンダー(gender)とは、生物学的な性別(sex)に対して、社会的・文化的につくられる性別のことを指す。「ジェンダーフリー」などと使われるようだが、日本ではまだ十分に「こなれていない」ようだ。「男女平等」を教科書などで叩きこまれた筆者もしかり▲半世紀も前のTVの「モーニングショー」でサブ司会者が年長司会者の「男らしさ」「女らしさ」の発言にかみついたのを思い出す。「ジェンダー」という言葉が日本に入ってきたのが80年代の終りということと考え合わせると当時も意識の進んだ人がいたことに驚く▲嘉納師範は初め、女子柔道での試合を禁止した。理由として女子は試合となると勝負にこだわる結果、無理をして母体に影響を与えるからということで、男女差別、女性蔑視ではなかったとのこと▲子供を産むのは女性、道端の重い石を動かすのは男と役割は決まっている。(美崎)